



関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations



建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

2011年霜月祭 盛大に開催



22面に関連記事

音楽バンドの演奏で盛り上がる会場=10月29日(土)、教養部グラウンド

CONTENTS

医学教育センター新設	2	病院	14
法人 倉敷中央病院 相田副理事長招聘講演	4	大学情報センター・被災地支援	18
女性医師の短時間勤務正職員制度を活用しませんか	5	卒後臨床研修センター	19
新学舎のポイント紹介<4~8階>	6	附属看護専門学校	20
大学 オープンキャンパス・アンケート結果	8	同窓会・メディア情報	21
病態分子イメージングセンター始動にあたって	9	キャンパスニュース	22
解剖体慰霊碑供養を執行	10	お知らせ	24

特 集

医学教育センター新設

10月に枚方の研修棟2階に「医学教育センター」が新設されました。センター長の木下洋特命教授を中心に、専任教員である菅谷泰行准教授、河本慶子助教に加え、22名の兼務教員らで構成されています。

医学教育センター長に就任して



医学教育センター
センター長 木下 洋

平成23年10月1日から関西医科大学医学教育センターが設置され、同センター長に就任いたしました。何卒宜しくお願ひ申

上げます。

平成25年1月には枚方キャンパスに新学舎が完成し、教養部・専門部・研究施設が移転して6年間一貫教育に最適の教育環境となります。これに先立ち、カリキュラム・チュートリアル教育・臨床実習など様々な卒前教育内容を改変する必要があるため、医学教育センターの設置が実現しました。

医学教育センターは、本学の教育の理念に基づいて本学学生が人間性豊かな良医となるための学習支援を行い、本学の教育水準のさらなる向上と卒前卒後の臨床教育の充実とを図ることを目的とし、この目的の達成のために医学教育の実務と企画とを行います。本学では当初から専任の教員と事務職員を配置し、学生へ

のきめ細かい指導をめざしています。専任教員として、特命教授である私木下洋と菅谷准教授、河本助教が任にあたり、他に22名の兼務教員が学長から任命されています。現在、本学の教務に関する業務の全ては教務委員会で立案・実施されていますが、医学教育センター初動期のセンターの役割は卒前教育における学生支援にあります。卒後臨床研修センター(枚方分室)のクリニカル・シミュレーションラボ(CSL)との協調で、医学生の臨床技能をさらに効果的に身につけ、臨床の現場で実践するよう指導したいと思っております。本学での医学の研鑽が、学生自身にとってより充実し達成感に満ちたものであることを願うものであります。

■卒前教育に関するセンターの基本方針

医学生の到達目標が、学生により明確に自覚され、その目標を達成するための行動が実践されているかを確認・指導し、フィードバックすることで医学履修の支援を行います。開学83年となる本学の伝統を受け継ぎ、次世代の医療を担う慈仁心鏡の良医を育てるため、皆々様の温かいご助言・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

関西医科大学医学教育センター規程(抜粋)

(目的)

本学の教育水準の向上と卒前卒後の医学教育の充実を図ることを目的とし、この目的を達成するために、医学教育の実務とこれに伴う企画立案を行う。

(業務)

1. 教務委員会が実務を主導するカリキュラムを評価すると共に教育内容の向上のための支援および企画・立案を行う。
2. 特定の講座・科目に限定されないまたは共通の、下記に記載された実務を担当する。
 - (1) 総合人間医学教育に関すること
 - (2) クリニカルクラークシップおよび学外・国外臨床実習に関すること
 - (3) PBLチュートリアルに関すること
 - (4) 共用試験(CBT・OSCE)およびAdvancedOSCEの実施に関すること

- (5) 総合試験・卒業試験に関すること
 - (6) 医学生教育の基盤に関すること
 - (7) 卒後臨床教育に関すること
 - (8) その他特定の講座・科目に限定されない、または共通の事項で学長が必要と認めた事項
3. 教務委員会と協力して次の業務を担当する。
 - (1) 医学教育カリキュラムの策定に関すること
 - (2) FDの企画および実施に関すること
 - (3) 医師国家試験の対策に関すること
 - (4) 学生の評価に関すること
 - (5) 教育内容の評価に関すること
 - (6) 医学教育に関わる情報収集および調査・研究に関すること
 - (7) 各講座および科目間の教育面に対する調整に関すること
 - (8) その他医学教育に関して学長および教務部長が必要と認めた事項

枚方地区に自習用学生席及び学習機を設置

8月20日(土)から、附属枚方病院13階第二合同医局内に自習用学生席6席を設置しました。また、9月20日(火)から、枚方にある研修棟1階自習室6室のうち3室にも自習用学習機23席を設置しました(3ページ参照)。今後、学習環境の充実による学生の成果・学力向上に期待します。



新設された自習室。学生の学力向上に向けて期待が集まります。

特 集

医学教育センターの専任教員に就任して



医学教育センター
准教授 菅谷 泰行

本学で産声を上げたばかりの医学教育センターは教育の企画立案や実務を任務としています。学生が6年間を通して充実した大学生活を送れるようにするには、教育面で何を改善していけばいいのか、それを見つけ出し、プランニングし、実行に移すのが、医学教育センターの仕事であると理解できます。充実した大学生活を送れるようにするには、教育全般にわたる企画や立案も大切です

が、それにも増して、学生一人ひとりの個性や人格などを把握し、きめ細かな指導を行うことが重要になってきます。教育上の悩みがあれば、その解決のために一緒に考え、行動する態勢が求められます。この意味で、本学における医学教育センターは、学習支援センターとしての役目も兼ね備えているのではないかと解釈しています。勉学についての個別相談や担当の先生との仲立ち、あるいは教育や研修の施設に関する要望など、学生はもとより、先生方の声をひとつに集束させ、それらをより良い方向へ発展させていく、そのようなプロダクティブな機構に医学教育センターをしていければと抱負を抱えています。皆様のこれからのご支援とご協力をお願いいたします。



医学教育センター
助教 河本 慶子

平成23年10月1日より、関西医科大学医学教育センター専任教員を拝命いたしました。何卒宜しくお願い申し上げます。

総合診療科開設に伴う海外研修において一番心に残っている言葉は、カナダブリティッシュコロンビア大学でのFDワークショップやチューター会議で何度も何度も繰り返し出てきたフレーズ“学生をEncourageして下さい”です。教員は学生をEncourageすることに始まり、Encourageすることに終わります。学生の声

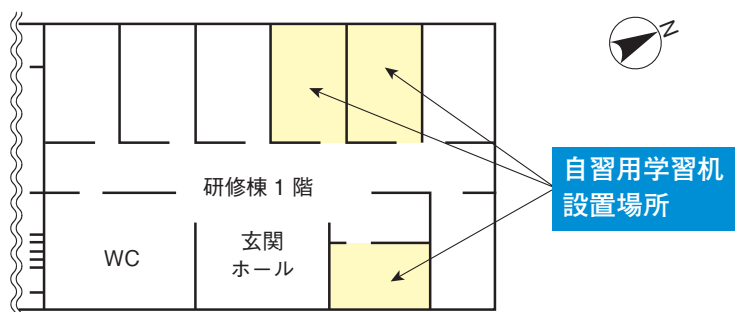
を聴き、共に考え、共に育つすなわち“共育”こそが“教育”であると考えます。今回、学長先生より「学生を支援してください。学生をとにかく可愛がってください。時には愛情を持って叱ってください」とお言葉を賜りました。海外で学んだ事と教育に対する姿勢がやっと一つに融合した貴重な瞬間でした。お言葉を胸に刻み、本学の建学の精神“慈仁心鏡”に則った医療人の育成に携われることを光榮に思います。

微力非才の身ではございますが、医学教育センター専任教員の重責を担いましたうえは鋭意専心、関西医科大学の発展のために精励いたす所存でございます。何卒ご指導ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

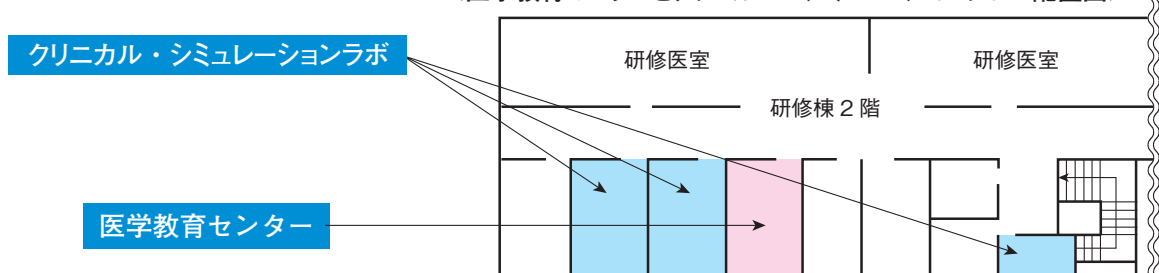


研修棟の外観。写真手前側の1階に自習スペースを設けました

<研修棟 1階自習用学習機設置場所の配置図>



<医学教育センターと臨床的・シミュレーションラボの配置図>



法人

倉敷中央病院 相田俊夫副理事長による招聘講演開催

講演される相田副理事長



本学の「病院経営管理講演会」が11月5日(土)午後2時から、附属枚方病院13階講堂で開かれ、(財)倉敷中央病院の相田俊夫副理事長のご講演が行われました。テーマは「民間急性期病院の経営戦略と実践」で、山下敏夫理事長・学長はじめ教職員136名が参加しました。相田副理事長は同院に関する「ミッションと現況」「経営

戦略」「経営実践—ハード、人、財務、ソフト」「経営戦略の実践者に求められるもの」の4項目について、ご自身の経験などを交えながら分かりやすく解説されました。中でも、管理職の現場実行力の重要性について強調され「戦略実現のために現場の小集団に責任と自由を与え、ボトムアップ、ミドルアップのシステムづくりに努めてほしい」と締めくくられました。



真剣な表情で聴講する教職員ら

目標管理制度考課者研修会を開催

本学では目標管理制度の導入に向け、平成21年から一部の職員に対し試行してきましたが、本年4月から一般職員全員を対象とした試行運用を開始しています。これに併せて外部講師を招いた考課者研修会を8月6日(土)、9月3日(土)、同10日(土)の3日程に分けて実施し、総勢155名が出席しました。研修では①目標設定②面接手法③評価適正度について、考課者スキルの均一化及びレベルの底上げを図ることを目的に、目標設定方法から評価に至るまでのプロセスを学び、演習等を通じて参加者自身が体験しながら考課手法の習得を目指しました。



講師の説明に耳を傾ける出席者たち

第1回関西医科大学地域医療連携フォーラム開催



地域の医療関係者らが参加したフォーラムの様子

9月17日(土)午後3時から「第1回関西医科大学地域医療連携フォーラム」を附属枚方病院13階講堂で開催しました。本学地域医療促進作業部会等の主催で、15名の地域医療関係者が参加しました。このフォーラムは講演を通じて役立つ情報を提供することや、地域第一線の医療を担う医師との交流を目的に開催しました。テーマは「高血圧：最新の治療」で、臨床検査医学講座の高橋伯夫教授が「ガイドラインに即した降圧治療の実際～最新の降圧剤の使い方を中心に～」、内科学第二講座の妹尾健助教が「心疾患症例における急性期から慢性期の管理」、健康科学教室の木村穰教授が「在宅自動血圧測定システムと高血圧運動療法の実際」とそれぞれ題して講演しました。また、講演の後は情報交換会が開かれ、参加者と本学教員が交流を深めていました。

女性医師の「短時間勤務正職員制度」を活用しませんか？

本学では「育児及び介護を行う女性医師」に適用する短時間勤務正職員制度を昨年に導入し、出産のため一旦、医療現場を離れた女性医師の復職を支援しています。現在、附属枚方病院で8名、附属滝井病院で2名が制度を利用し、正職員として働いています。これまでは女性医師が「育児をしながら復職を」と望んでも、高度医療機関では長時間勤務など勤務形態が不規則であり、出産を機にやむなく退職する医師は多く、復帰の場も限られていました。

本学では、年々増え続ける女性医師が育児と仕事を両立できる仕組みづくりを目指しており、多様な勤務形態があることによって「選ばれる職場」となって医師不足の解消にも貢献できると考えられます。

実際に制度を活用している附属滝井病院耳鼻咽喉科の金田直子病院助教に寄稿していただきました。

女性医師の「短時間勤務正職員制度」を活用して

附属滝井病院耳鼻咽喉科 病院助教 金田 直子

学生のときに結婚、出産、育児といった一連の経過を真剣に考えることなく医師となり、そのまま本学の耳鼻咽喉科医局に入局した私に転機が訪れたのは母の死でした。半年間の闘病の末亡くなった母は私の花嫁姿や孫を楽しみにしていたようで、医師として歩み始めたばかりの私に人生とは何かを突きつけていきました。その後、縁あって会社員である現夫と結婚しましたが、専門医試験や出産適齢期など色々と悩みながらも2児を授かり現在に至ります。2児とも出産時は関連病院に出向中でしたので、いわゆる産休や育休制度をしっかり利用させていただきました。この制度は本当にありがたいもので、体力的、経済的にゆとりをもって子育てできました。そして今年4月からは本学の「短時間勤務正職員制度」を利用して滝井病院に戻ってきました。

現在、長女は小学1年生、長男は2歳ですので、それぞれ学童保育と認可保育所を利用しながらの勤務になります。9時からの勤務なので「世のお母さん方々に比すれば楽な方だ～」と自分に言い聞かせながらも、弁当や朝食作りに子供達の準備…と、やはり毎朝戦場です。夕方はというと、小学校と保育所が反対方向なのでごい形相で“ママチャリ”を走らせて子供たちを迎え、適当ながらもバランスを考えた夕食を提供、これまた適当に子供の話に相槌を打ちつつ入浴、片付けに洗濯(我が家は夜干し)、気づけば就寝時間。1日があっという間です。

一方、勤務時間内は仕事に専念でき、また職場の皆さんも私の働き方を理解して下さっているので、本当に助かります。メインが外来勤務で他は補助程度、本当に中途半端な働き方なのですが、それでも受け入れてくれる環境に感謝しております。子供は特に2歳までは急な発熱が多く、保育所内であっという間に広がり、病によっては自宅待機期間があります。子供の面倒をみてくれる家族がいればよいのですが、当てがなければ結局自分(母親)がみなければいけません。ベビーシッターや病児保育も度々利用し慣れていけばいいので

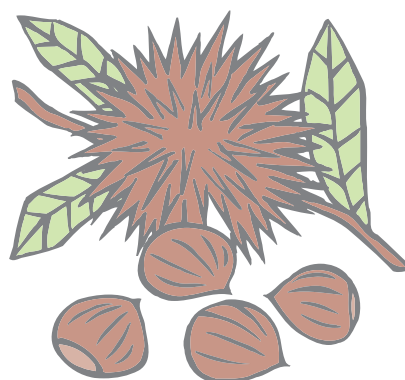
しょうが、あまりに急だと対応できないケースも多いものです。そんな時、例えば欠勤や遅刻となってもカバーできる体制が職場にあるか、が大切になってくると思うのです。

医療現場に限らず、働く母は今後も増える一方で、高齢化社会の世の中、介護問題は働き盛りの男性にも関わってくるでしょう。そのような家庭環境に柔軟に対応できる働き方が求められており、その一例が短時間勤務正職員制度だと思います。女性教授陣はこう述べておられます。

「自分の置かれた環境でベストを尽くすこと」「限られた時間の中でプロフェッショナルな仕事をするのが大事」「子育てが大変なときは仕事のペースを下げるなど、生活に優先順位をつけることが重要」

正にその通りだと思います。こういった働き続けるコツを参考に、細々でも長く医師を続けることが私の目標です。

※短時間勤務正職員制度は教育職である女性研究者にも適用されます。



法人

新学舎のポイント紹介〈4～8階〉

前号までに1～3階について掲載しました。今号は4～8階のポイントを紹介します。

◆4階概要

4階は大小の会議室が6室、自習室(学生の国家試験対策室を含む)が24室、そしてラウンジスペースが設けられます。また、3階建ての低層棟の屋上の上部には、3階の食堂からつながるカフェテリアが配置されます。

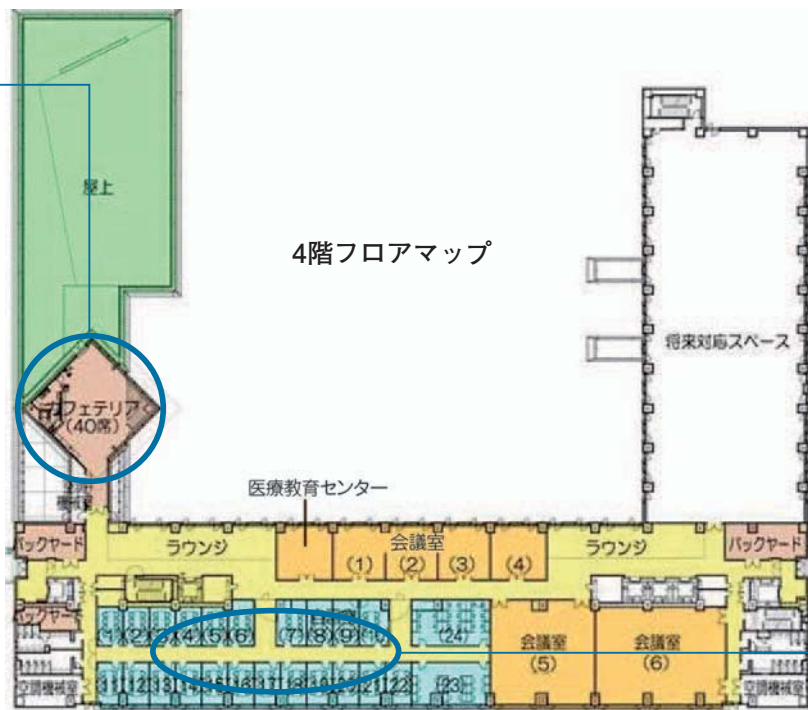


◆カフェテリア

大きな窓から日が差し込むカフェテリアは40席が配置される憩いのスペースです。中庭や淀川を臨みながらゆったりと休憩できます。



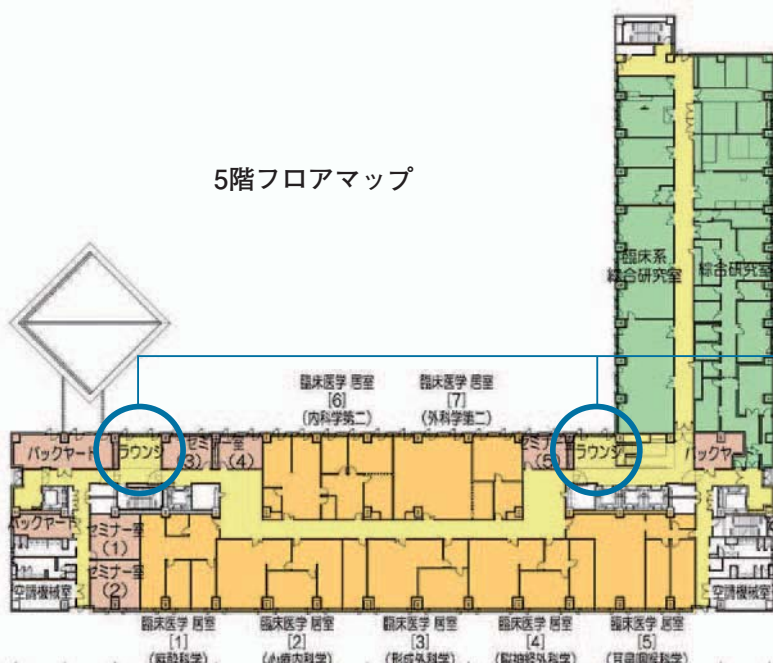
4階フロアマップ



◆自習室

5～6人対応の自習室22室と大部屋スペース2室を配置します。自習室は明るく見通せるガラス壁によって構成し、活発なコミュニケーションを促します。

5階フロアマップ



◆5～8階概要

5～8階は中層棟と高層棟のみのフロアで、セミナー室、総合研究施設、実験動物飼育共同施設が配置されます。また、セキュリティが保たれた24時間稼働の各講座の居室・研究室を配置し、研究体制を整備します。

◆ラウンジスペース

5～8階の各フロアには、ラウンジスペースが設けられます。研究や実習の合間などにつろぐ場として活用することができます。

法人

寄付金

枚方キャンパス統合移転整備事業寄付金として平成23年8月1日から平成23年10月31日までにご寄付いただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。なお、募集当初から平成23年10月31日までの寄付金累計額は3億8,374万1千円です。



関西医科大学枚方キャンパス統合移転整備事業募金のご案内

- | | |
|--|---|
| <p>1. 募集対象
同窓会会員、本学学生の保護者、教職員、本学関連の個人および法人</p> <p>2. 募集金額
1口10万円・申込口数1口以上
できるだけ多数口のご協力をお願い申し上げます。</p> <p>3. 申込方法
寄付申込書に所定事項をご記入ご捺印の上、お申込ください。寄付申込書は下記の3種類がありますので、いずれかをご提出ください。</p> <ul style="list-style-type: none">・個人の場合：特定公益増進法人申込書・法人の場合：(1)特定公益増進法人申込書
(2)受配者指定寄付金申込書 | <p>4. お問い合わせ先
関西医科大学枚方キャンパス統合移転整備事業募金委員会事務局</p> <p>〒570-8506
大阪府守口市文園町10番15号
TEL：06-6993-9556(直通)
FAX：06-6993-5221
E-mail：bokin@takii.kmu.ac.jp
URL：http://www.kmu.ac.jp/bokin/index.html</p> |
|--|---|

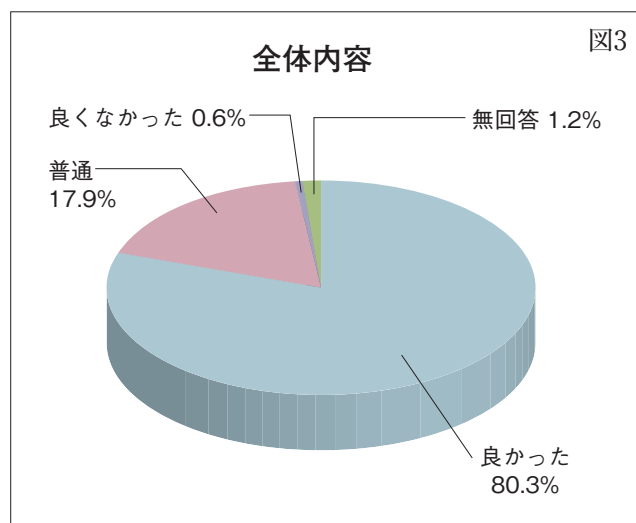
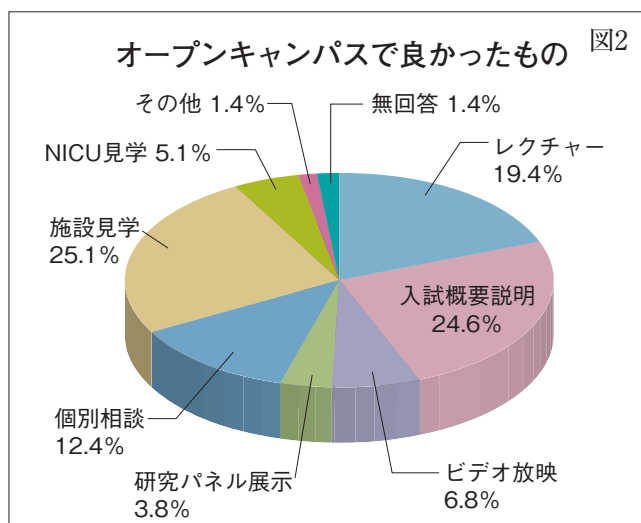
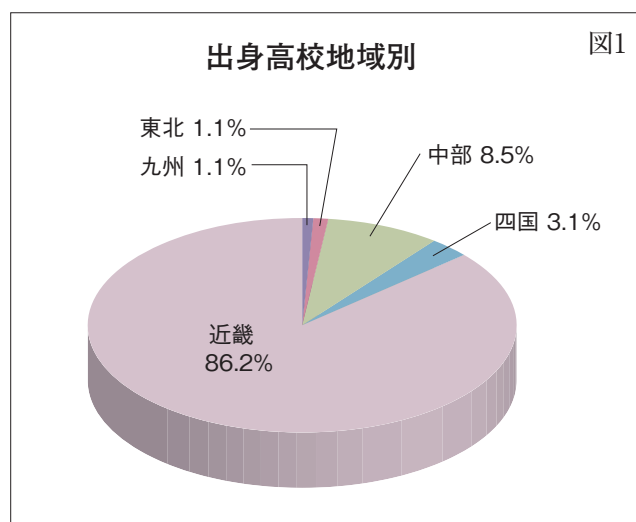
多数の参加者が「満足」と回答

オープンキャンパス・アンケート結果

平成23年度のオープンキャンパスはVol.14(8月25日発行)で既に掲載したとおり、7月30日(土)に本学附属枚方病院において開催し、204名の参加者を得て盛況裡に終了しました。当日にアンケートを実施し、162名(回収率は79.4%)から回答がありましたので報告します。

参加者の出身高校地域別(図1)は、近畿地区81名(86.2%)が最も多く、中部地区8名(8.5%)と続いています。近畿地区の府県の内訳は、大阪39名、京都18名、兵庫12名、奈良5名、和歌山5名、滋賀2名の順となっています。オープンキャンパスで良かったもの(図2)では、「施設見学」が93名(25.1%)と最も多く、「入試概要説明」91名(24.6%)、「レクチャー」72名(19.4%)となっています。全体の内容(図3)は、「良かった」が130名(80.3%)を占め、「普通」と答えた29名(17.9%)と合わせると、159名(98.2%)の結果となりました。

この結果から、参加した多数の方に満足していただけたオープンキャンパスになったと思われます。来年度も今年度以上に良かったと思われる企画等を検討していく方針です。



「関西医科大学雑誌」初巻～60巻全号を電子アーカイブ化

関西医科大学医学会は昭和23(1948)年の創刊以来、学会誌「関西医科大学雑誌(継続前誌：大阪女子医科大学雑誌)」を刊行していますが、科学技術振興機構(JST)の電子アーカイブ対象選定委員会によって、平成24(2012)年12月(予定)から同誌が創刊号以降の60巻全号に掲載された主として論文を電子化してアーカイブされる対象誌として選定されました。電子アーカイブとは、誌面を電子データ化し、同機構インターネットウェブサイト上で公開することをいいますが、アー

カイブ化以降は掲載された論文はもとより、リンク付けされた参考文献などが広く公開されますので効果的な閲覧ができます。

なお、電子アーカイブ化にあたり著作権の委譲を告知によりお願いしておりますので、お気づきの点がございましたら、医学会までお知らせください。詳しくは同会のホームページをご覧ください。

<http://www3.kmu.ac.jp/igakukai/>

大 学

病態分子イメージングセンター始動にあたって

病態分子イメージングセンター センター長 伊藤 誠二

学術フロンティア推進事業「ブレインメディカルリサーチセンター」(平成18年～22年)で確立されたトランスレーショナル研究を継続し、枚方キャンパスで全学的な基礎臨床研究に発展させるために、平成23年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業*に応募した5年プロジェクト「分子イメージングによる体系的病態の解明と診断治療法の開発」が採択されたのを受けて、この8月に病態分子イメージングセンターが設置されました。病態分子イメージングセンターは最先端の分子イメージングシステムを駆使して、患者と動物モデルの疾患の病態を分子から個体まで体系的に解明し、課題とする疾患の診断治療法の開発に結びつける研究拠点を形成することを目的としています。枚方キャンパスでは、RI分子イメージング室、多光子励起顕微鏡、質量顕微鏡など最新の分子イメージング機器を配備した中層棟5階が研究拠点となります。平成23年度、平成24年度は滝井キャンパスにおいて研究拠点のソフト面

での基盤形成のための事業をスタートさせます。この事業では神経、がん、代謝の3部門と支援グループの研究体制を構築し、神経部門は神経可塑性・非可塑性、神経変性疾患、がん部門は組織・がん幹細胞の同定、発がん・転移機構、代謝部門は血管・組織の加齢変化、動脈硬化、糖尿病を中心に、患者標本、iPS細胞、動物疾患モデルを用いて病態解明から臨床応用をめざすトランスレーショナル研究を推進します。正副センター長、部門統括者からなる運営委員会でプロジェクトの年次事業計画を立て、部門統括者は研究コーディネーターとして、研究成果が上がるようグループ内の連携とグループ間、支援グループとの調整を行い、研究成果は国内外の外部委員の評価を受けます。部門統括者、支援グループ、セミナー等を通じて講座の垣根を越えた若手研究者の育成を行い、枚方キャンパスで次世代につながる研究拠点の形成を目指しておりますので、皆様方のご支援・ご協力をお願いいたします。

◆運営会議メンバー

センター長	伊藤 誠二(医化学)
副センター長	上野 博夫(病理学第1)
神経部門統括者	山田 久夫(解剖学第1)、日下 博文(神経内科学)
がん部門統括者	藤澤 順一(微生物学)、友田 幸一(耳鼻咽喉科学)
代謝部門統括者	中邨 智之(薬理学)、岡崎 和一(内科学第3)

*私立大学が各大学の経営戦略に基づいて行う研究基盤の形成を支援するため、研究プロジェクトを遂行するための研究拠点に対して、研究施設・設備整備費や研究費を一体的、重点的かつ総合的に補助を行う文部科学省の事業で、もってわが国の科学技術の進展に寄与する事業です。

学位記授与式挙行 18名が修了

9月27日(火)午後4時から、専門部学舎1号館5階大会議室において「平成23年9月学位記授与式」が挙行され、山下敏夫学長から18名に博士(医学)の学位記が授与されました。式典では修了生一人ひとりに学位記が手渡され、修了生への期待を込めた山下学長からの告辞の後、修了生を代表して野村恵己子助教が謝辞を述べ「本学で学んだ多角的なものの考え方をこれからも生かしたい」と抱負を語りました。



謝辞を述べる野村助教(前列左から2人目)と修了生たち

第37回実験動物慰霊祭挙行



慰霊の言葉を捧げる藤澤施設長

第37回実験動物慰霊祭が10月13日(木)午後1時から、専門部学舎2号館地階遣伝子治療室において挙行されました。山下敏夫学長はじめ、伊藤誠二副学長、藤澤順一実験動物飼育共同施設長ら教職員84名が参列し、無宗教形式で執り行われました。藤澤施設長は「医学の進歩において、動物実験の果たす役割は大きい。すべての生物の尊厳の維持のために、これからも動物の死を無駄にすることなく実験を行っていき」と慰霊の言葉を捧げ、続いて参列者が順に献花を行い、哀悼の意を表しました。

大 学

解剖体慰霊碑供養を執行

本年度解剖体慰霊碑供養は、10月26日(水)午前11時から臨濟宗本山建仁寺塔頭正伝永源院内の本学解剖体慰霊碑前において、山下敏夫理事長・学長、平野利夫白菊会会長、及び徳永力雄常務理事ほか、学内関係教授や白菊会関係者参列のもと、新仏の入魂ならびに供養の儀が執り行われました。



山下理事長・学長や平野会長ら関係者が参列しました

寝屋川市と学校法人・公立大学法人との
包括連携協定締結式

関西医科大学・大阪府立大学・寝屋川市



寝屋川市の馬場市長と協定書を交わし、握手する山下理事長・学長(左)

寝屋川市と包括連携協定を締結

本学と寝屋川市の包括連携協定締結式が10月5日(水)午前10時から寝屋川市役所で行われました。相互の発展に向けて、地域の活性化や人材の育成に寄与することが目的で、式典では山下敏夫理事長・学長が「寝屋川市と包括協定を結んでいる各学校法人と力を合わせ『寝屋川ブランド』の向上に役立ちたい」と抱負を述べ、署名した協定書を寝屋川市の馬場好弘市長と交換し、がっちりと握手を交わしました。

なお、この日は大阪府立大学も同様の協定を寝屋川市と締結しており、同市が包括連携協定を結んでいる学校法人等は計6法人となりました。

クリニカル・クラークシップ中間検討会実施

8月20日(土)午後2時から附属枚方病院13階講堂において、クリニカル・クラークシップ中間検討会が開催されました。今年4月から臨床実習を開始した5学年学生97名と藺田精昭教務部長、友田幸一臨床実習小委員会委員長、木下洋准教授をはじめ、実習担当の教授及び教育医長の24名が出席しました。

藺田教務部長の開催挨拶の後、本学教務委員会作成のDVD「医学生としての態度・人間性教育」の上映や、藺田教務部長、友田臨床実習小委員会委員長による講演が行われた後、続いて各科教育医長から臨床実習中の学生に向け感想や種々意見が述べられました。さらに学生からは、学生間で自主的に取りまとめたアンケート内容を中心に臨床実習に対しての要望や感想等の

発表があるなど、終始和やかな雰囲気の中で活発な意見交換が行われ、今後の臨床実習がより実りあるものとする良い機会となりました。



臨床実習中の学生に対する意見を述べる実習担当教員

教授会でiPad導入

教授会では9月からタブレット型コンピュータの「iPad」を使用しています。本学の理事会において、理事長直轄の「大学(法人)支出削減作業部会」の提案のもとiPadの使用を試行、その後に本格導入しており、それに倣って教授会でも使用することになりました。これによりペーパーレス化につながっています。

慈仁会全国懇談会開催

平成23年度慈仁会全国懇談会は、10月16日(日)午前11時から牧野キャンパスで1学年保護者67名、滝井キャンパスで2～6学年保護者314名が参加して開催されました。クラスアドバイザー教員とのクラス別懇談会、個別懇談会を中心に、また学内の図書館及びチュートリアルルームの見学も行われ、午後5時前に全て無事終了しました。

大 学

立命館大学との戦略的大学連携支援プログラム

シンガポール研究機関を視察を実施

本学と立命館大学との戦略的大学連携支援プログラムの一環として、5月22日(日)～25日(水)に本学の木原裕教授ら2名と立命館大学の教職員4名がシンガポール国立大学(NUS)内にある生命科学部、総合科学技術大学院(NGS)、ヨン・ルー・リン医学部およびガン研究センター(CSI)の教育・研究施設、並びにバイオポリス内のゲノム科学、神経科学の研究施設を視察しました。シンガポールで最先端の研究に従事する研究者達とのディスカッションを通して、大学院教育カリキュラム開発や博士号取得者のキャリア形成、ライフサイエンス分野における今後の展望について調査しました。

シンガポールの研究者たちと意見交換するメンバーたち



戦略的大学連携のLAC委員会を開催



LAC委員からの質問に答える伊藤副学長(中央)

10月6日(木)午前10時30分から、立命館大学との戦略的大学連携支援プログラム「理工医薬融合型ライフサイエンス高度専門教育システムの創成」に関するLAC(ライフサイエンス・アドバイザリー・コミッティ)委員会が開かれ、2009年度に組織整備されたLAC委員会の委員6名と、本学から伊藤誠二副学長、山田久夫、木原裕の両教授、さらに立命館大学の関係者が出席しました。

委員会では事業や将来の展望などについて説明が行われた後、各委員から「地域の課題が全体の課題の端緒となるような取組みにしてほしい」といった意見や感想が挙げられました。

大学院医学研究科(前期)入学試験及び論文博士語学試験を実施

平成24年度前期大学院博士課程入学試験は、9月3日(土)専門部学舎において午前中に外国語試験、午後から専攻別授業科目試験を実施しました。受験者数は大学院博士課程が19名(うち社会人特別学生2名、臨床系社会人コース(長期履修制度)4名)で、同時に行った論

文博士語学試験には2名が受験しました。昨年度の前期試験受験者数と比較して大学院博士課程が10名増であり、論文博士語学試験が3名減少しましたが、全体では7名増となりました。合格者は、大学院博士課程入学試験18名、論文博士語学試験2名でした。

平成24年度大学院入学試験 後期日程のお知らせ

【大学院後期試験】

〔募集人員〕

医科学専攻(代謝機能制御系、高次機能制御系、生体応答系、社会環境医療系)計30名(前期、後期の合計)

先端医療学専攻(修復医療応用系、ブレインメディカルサイエンス系)計20名(前期、後期の合計)

〔願書受付期間〕

平成24年1月10日(火)～平成24年2月3日(金)

(郵送する場合は 受付期間内に必着のこと)

〔選抜方法〕

外国語(英語)筆記試験(午前9時30分～正午)

専攻別授業科目(午後)

〔実施期日〕

平成24年2月18日(土)

〔試験会場〕

外国語(英語)：専門部学舎1号館4階「第4実習室」

専攻別授業科目：当日告知

〔合格発表日〕

平成24年3月14日(水)

※詳細は募集要項をご参照ください。

大 学

健康沿線トークカフェ(第1回・第2回)を開催

第1回：ヘルスプロモーション3.0の実現に向けて

7月30日(土)午後3時から、附属枚方病院レストラン「のぞみ」において、第1回健康沿線トークカフェ「ヘルスプロモーション3.0の実現に向けて」(主催：本学健康科学センター、後援：産学連携知的財産統括室)を開催し、産・官・学・民から21名が参加しました。表題

のテーマに沿った講演を大阪電気通信大学医療福祉工学部南部雅幸教授、本学健康科学センター木村穰教授、公衆衛生学講座三宅眞理講師の3名の演者に依頼し、各々の研究内容の発表後、参加者の方々と活発な議論が交わされました。

第2回：立体造形骨モデル作製システムの構築とその応用

8月18日(木)午後4時から、本学専門部1号館大会議室において、山下敏夫理事長・学長、藤澤順一産学連携知的財産統括室長、三島健同顧問ほか本学教職員、共同研究を行う他大学や企業関係者12名の参加のもと、第2回健康沿線トークカフェ「立体造形骨モデル作製システムの構築とその応用」(主催：産学連携知的財産統括室)が開催されました。医産連携の取組みとして(株)坂本設計技術開発研究所の坂本喜晴取締役、大阪工業大

学情報科学部の井上雄紀准教授、及び本学から整形外科科学講座の小室元非常勤講師、形成外科学講座の田中義人助教の講演が行われたほか、成果物である立体骨モデル等のデモンストレーションもあり、活発な意見交換が行われました。また、健康科学センターの木村教授からアンチエイジングドックについての報告もされ、産と学の交流が図られました。

平成23年度 JST A-STEP(第1回)採択一覧

(独)科学技術振興機構(JST)による平成23年度A-STEPに下記の研究者が採択されました。

事業名	研究課題名	研究代表者名	交付内定額(単位：円)	
			直接経費	間接経費
(独)科学技術振興機構 A-STEP FSステージ 探索タイプ	体性幹細胞を用いるヒト造血幹細胞の体外増幅システムの開発	衛生学講座 菌田 精昭 教授	1,307,693	392,307
(独)科学技術振興機構 A-STEP FSステージ 探索タイプ	注意欠陥・多動性障害の病態評価を眼球運動で行う新しい診断法の開発	生理学第二講座 渡邊 雅之 講師	1,307,693	392,307
(独)科学技術振興機構 A-STEP FSステージ 探索タイプ	小型ワイヤレス骨伝導音声伝達機器を用いた認知症の確定診断とサポート	精神神経科学講座 田近 亜蘭 助教	1,307,693	392,307

研究助成金等受贈者(採択)一覧

平成22年度に募集のあった各種助成財団による研究助成金等が下記の研究者に贈呈されました。

研究助成法人・団体等	受贈者	研究課題等	助成額等
公益財団法人 上原記念生命科学財団 平成22年度 国際シンポジウム開催助成金	泌尿器科学講座 松田 公志 教授	第29回世界泌尿器内視鏡学会議 組織委員長 松田 公志 2011/11/30~12/3 京都	100万円
公益財団法人 上原記念生命科学財団 平成22年度 海外留学助成リサーチフェローシップ	胸部心臓血管外科学講座 齋藤 朋人 研究医員	XVIVO systemによる 肺再生・修復	400万円

大 学 (学生のページ)

4月の国外臨床実習を終えて 新施設で実習した2名の体験談を紹介します

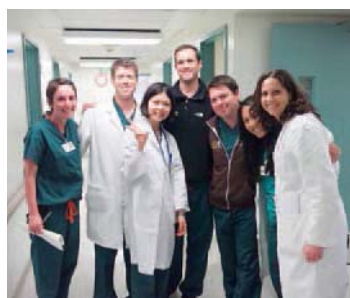
前号(Vol.14)で「国外臨床実習」の成果報告会の記事を掲載しましたが、今年は実習先として新たにアメリカ・カリフォルニア大学サンフランシスコ校とカナダ・トロント小児病院が加わりました。この2校で実習した学生に感想文を募ったところ、2名の学生から感想文が届きましたので紹介します。

英語は目的ではなく手段

カリフォルニア大学サンフランシスコ校で実習 6学年 大道 和佳子

4月1日から30日まで、カリフォルニア大学サンフランシスコ校(University of California San Francisco: UCSF)で国外臨床実習をさせていただきました。実際に実習させていただいたのは、UCSFの関連病院であるSan Francisco General Hospital(SFGH)の整形外科(Orthopaedic Trauma Institute)です。今回の実習ではカンファレンス、レクチャー、外来、手術、勉強会など、チームの一員として全てに参加させていただきました。

カンファレンスやレクチャーは慣れない英語に戸惑うことも多々ありましたが、1カ月の間に医学知識と医学英語の両方を学ぶことができ、特に英語で症例のプレゼンテーションをする機会をいただけたことは本当に良い経験となりました。環境は変わっても、自分から積極的に動く姿勢があればたくさんのものを得られるし、全ては自分次第なのだということを実感しました。



そして、もう一つ気づいたことがあります。それは、英語は目的ではなく手段であるということです。近年、

医学英語教育の重要性が高まってきており、英語を話せるようになりたいと願う医学生は少なくありません。無論、私もそのうちの一人であり、今回の国外実習においても英語力を向上させることは大きな目標でした。そして、英語圏以外の出身でありながら英語を自在に操る医師をたくさん見て、英語の必要性をますます痛感しました。しかし彼らと接する中で気づいたのは、彼らは英語が話せるからアメリカの病院で働いているのではなく、医師として必要とされているからそこにいるのだということです。英語が大切なのは言うまでもありませんが、自分の目指す医師像に近づけるように、勉強や実習において今できる努力をしなければならない、という医学生として当たり前のことに改めて気づかされたことは、意外な収穫でした。

国外実習は本当に楽しく充実していて、ここに書ききれない経験、思い出がたくさんできました。次に私がすべきことは、この経験を今後の自分に活かすことだと思っています。最後になりましたが、私にこのような貴重な経験をさせて下さった国外臨床実習担当の先生方や大学関係者の皆様、並びにUCSF、SFGHの先生方やスタッフの皆様にご心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

コミュニケーション能力の鍛錬の場に

カリフォルニア大学サンフランシスコ校で実習 6学年 山本 優美

私はこの度、アメリカ・サンフランシスコにあるカリフォルニア大学サンフランシスコ校の関連病院であるサンフランシスコジェネラルホスピタル(SFGH)の外傷センターで国外臨床実習をさせていただきました。そこでは免許の都合上、私たちは医療行為を行うことができませんので、カンファレンスの参加、外来、手術見学をさせていただきました。

外傷センターには銃創、スケートボードでの外傷といったアメリカに多い症例から、交通外傷、変形性関節症など幅広い症例が運ばれてきますが、私が今回の実習で感じたのは自分のコミュニケーション能力の低さでした。人種のるつぼといわれるサンフランシスコには中国、南米、ベトナムなど様々な人種の



人たちが住んでいます。SFGHでは色々な国から来た先生や看護師たちが働いていました。彼らも私のように母国語のなまりが混じった英語でしたが、自信をもって話をしており、誰も人種の違いなど気にもせず、同じ仲間として対等に働いている姿が印象的でした。

アメリカでは、黙っている受け身な態度の人には誰も何も教えてくれませんが、積極的に質問すると詳しく丁寧に説明してくれます。実習当初の頃は怖気づいていましたが、自分で行動しなければ何も得られない状況に慣れるにつれて積極性とコミュニケーション能力がとても鍛えられました。

今回の国外臨床実習を通して、普段では学べないことをたくさん学ばせていただきました。このことは今後医師を目指していく上できっと大きな力になると思います。

最後になりましたが、この度はこのような貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

病 院

第4回 合同クリニカルパス大会開催

8月4日(木)午後5時30分から、枚方・滝井・香里病院間を3日中継して、第4回合同クリニカルパス大会が開催されました。大会では附属枚方病院が「糖尿病教育入院パス」、附属滝井病院が「食物負荷試験パス」、香里病院が「大腸切除術パス」と、それぞれ題した発表を行いました。各演題発表の後、医療の質向上を目的とした活発な議論が行われ、有意義な大会となりました。



会場では活発な意見交換が行われました

附属枚方病院

震度7想定 附属枚方病院で災害訓練

仮設アンテナではDMATらが運ばれる患者を対応しました



10月15日(土)午前10時から、附属枚方病院の「第5回災害訓練」が実施されました。今回の訓練のキャッチフレーズは「災害時医療体制の標準化を目指して」で、東南海・南海地震が発生して枚方市で震度7の強い揺れが生じた

この日は「地震による負傷者多数発生」の第一報の後、災害対策本部が立ち上がり、災害現場において救急隊による患者の救済やDMATによる医療活動が行われ、受入れ側の病院では重症度・緊急性により分別するトリアージの後、各ゾーンへの患者搬送や誘導、模擬患者の治療、病棟受入れ、情報伝達といった訓練が実施されました。患者役のボランティアが特殊メークで本物のけが人を装ったほか、14台の消防車両を導入するなど、本番さながらの臨場感あふれる雰囲気がかき、スタッフらは大声を張り上げて懸命に活動していました。終了後の講評では今村洋二病院長が「災害が起こった時にやるべき行動が自然に取れるよう、日頃の仕事の中で一人ひとりが考えてほしい。これからも繰り返し訓練を行っていききたい」と締めくくり、スタッフは日常における災害への意識を高めていました。

の想定のもと、医師、看護師、医療技術職、事務職などの病院スタッフのほか、枚方寝屋川消防組合をはじめ附属看護専門学校、摂南大学薬学部、市民や病院登録のボランティア、ECCアーティスト専門学校の協力を得て実施し、総勢400名以上が参加しました。また、今回初めて外部からの見学者を受け入れ、竹内脩市長をはじめ枚方市職員や、近隣の病院関係者20名が見学しました。



緊迫した雰囲気の中、懸命に取り組むスタッフ

看護部企画による市民公開講座開催

10月1日(土)午後2時から附属枚方病院13階講堂及び合同カンファレンスルームにおいて、看護部の企画による市民公開講座を開催し、約270名の市民が参加しました。「健康いきいき生活のすすめ～充実した人生を送るために～」がテーマで、健康科学センターの木村穰教授が「アンチエイジング最新情報」、また看護部の安田光子看護師長が「私の生き方」と題して、それぞれ講演しました。参加者は60代～70代が大半で、健康意識の高さを再認識している様子でした。



健康について学ぶ参加者たち

病 院

今村病院長が厚生労働大臣表彰を受賞



附属枚方病院の今村洋二病院長は、社会保険診療報酬支払基金を通じ、医療保険制度の発展に貢献した功績を称えられ、10月26日(水)に平成23年度の「社会保険診療報酬支払基金関係功績者厚生労働大臣表彰」を受賞しました。

表彰状と記念の銀杯を受賞した今村病院長

北澤救命救急センター長が医師会表彰受賞

平成23年度の「救急医療功労者大阪府医師会表彰(個人)」の表彰者に、附属枚方病院の北澤康秀救命救急センター長が選ばれ、9月8日(木)に大阪府医師会館において表彰式が開かれました。北澤センター長は長年にわたって救急医療の現場で献身的に職務に励んだことが評価されました。



表彰される北澤救命救急センター長(右)

美しい歌声で患者魅了 オータムコンサート開催

「むぎ笛」の皆さんの美しい歌声が会場に響きわたりました



9月17日(土)午後2時30分から、附属枚方病院2階エントランスホールにおいて、女声コーラスグループ「むぎ笛」の皆さん総勢25名によるオータムコンサートが開催され、190名の患者さんたちが集まりました。コンサートではグループの皆さんと参加者が童謡など聞き覚えのある曲を一緒に歌い、美しいハーモニーが会場に響きわたりました。

インドネシア人看護師候補者が院内を見学

見学に訪れたインドネシア人研修生たち



10月7日(金)に(財)海外技術者研修協会関西研修センターの2011年度インドネシアEPA看護師候補者研修コースの研修生24名の皆さんが枚方病院を訪問しました。日本とインドネシアが結んでいる経済連携協定のもと、国内ではインドネシア人看護師候補者の就労・研修を受け入れており、7月から研修を実施しています。今回の訪問は研修カリキュラムの中の「医療施設見学」の一環で、訪問先として枚方病院が選ばれました。この日は概要説明や院内見学が行われ、研修生たちは真剣な表情で説明に耳を傾けていました。

男性看護師会『HERO』誕生！

8月8日(月)午後3時30分に附属枚方病院のナースマン(男性看護師)28名が全員集合し、看護部長、副部長が出席のもと、第1回の男性看護師会が開催されました。この会の趣旨は、男性看護師間での情報交換や創造性のある取り組みの中で働きやすい職場環境づくりや職業人としての成長、男性看護師の定着、増員を目指すことです。これまでは、お互いに声掛けをして飲み会等は開いていましたが、全員集合することはなく、初めて顔を合わせたという人たちもいました。自己紹介、グループワークでは、和やかな雰囲気の中、様々な意見交換が展開され、部署を超えた繋がりが太くなり、『HERO』(H:枚方病院の E:笑顔で R:凛々しい O:男組の略)という愛称も誕生しました。

小中学生が医療体験 ブラックジャックセミナー実施

8月27日(土)午後2時から附属枚方病院13階講堂にて、小中学生を対象とした医療体験セミナーが実施され、小学生4名、中学生8名が参加しました。関西では初の試みとして実施されたセミナーで、狭心症・心筋梗塞についての簡単な講義の後、4つのグループに分かれて各部門をローテーションしました。中でも、カテーテル治療の体験コーナーでは帽子、マスク、手袋、術衣を着るなど本格的な格好でカテーテルの操作を行いました。参加した子供たちは全員が将来、医師を目指しており、セミナー後の感想では「今回の医療体験で医師になりたいという思いがさらに強くなった」といった意見もありました。(協力:手塚プロ、共催:ジョンソン・アンド・ジョンソン社)

病 院

附属滝井病院

中谷教授が救急医療功労者大阪府知事表彰(個人)を受賞

平成23年度の「救急医療功労者大阪府知事表彰(個人)」の表彰者に、本学の中谷壽男救急医学科教授兼附属滝井病院高度救命救急センター長が選ばれ、9月8日(木)に大阪府医師会館において、表彰式が行われました。

個人表彰者(3名)を代表して中谷教授が謝辞を述べ「この受賞を一つの区切りとしてなお一層、救急医療の充実に精進するとともに、医療の進歩に欠かすことが出来ない医学研究に力を注ぎたい」とさらなる抱負を語りました。



謝辞を述べる中谷教授



賞状を手にする中谷教授

第12回肝臓病教室を開催

参加者が肝臓に対する知識を高めた
肝臓病教室



9月17日(土)午前10時30分から、「脂肪肝は油断大敵」をテーマにした第12回肝臓病教室を附属滝井病院南館7階小会議室で開催し、市民ら62名が参加しました。消化器肝臓内科の是枝ちづ病院講師が「肝臓に脂肪がたまる～話題の脂肪肝とはどんな病気～」、管理栄養士の細見恭子主任が「脂肪を減らして体の中から綺麗になろう～食事の摂り方とは～」、久保田眞由美運動指導士が「知ってて得する運動療法～運動のポイントとは～」とそれぞれ題して講演し、肝臓に対する正しい知識を持ってもらうよう、参加者に促していました。

NST専門療法士臨床実地研修を実施

10月17日(月)から21日(金)の5日間、附属滝井病院で認定医の北出浩章講師のもとNST(栄養サポートチーム)専門療法士臨床実地研修が行われました。滝井病院は日本静脈経腸栄養学会の規定による教育認定施設で、薬剤師2名、管理栄養士3名、看護師3名が参加しました。研修は各診療科と栄養に関する計7テーマの講義を含む計40時間のカリキュラムで行われました。



NST専門療法士臨床実地研修の様子

香里病院

第2回寝屋川市医師会との地域連携の会

「地域連携の会」の発表の様子



9月17日(土)午後3時から香里病院8階会議室で、第2回目となる寝屋川市医師会との「地域連携の会」が開催されました。地域医療連携部長の高橋延行准教授が座長を務め、医師会側24名、同院側31名が参加しました。第1部では「ご紹介いただいた症例の呈示」として同院の医師から4題の発表がありました。第2部では内科の廣原淳子准教授が「非アルコール性脂肪肝(NASH/NAFLD)に関する最近の知見」をテーマに特別講演を行い、その後は熱心な質疑応答が行われるなど、盛会裡に終了しました。

病 院

「おなかの病気」テーマに市民公開講座開催

香里病院としては第3回目となる市民公開講座が10月8日(土)午後2時から、京阪寝屋川市駅前のアルカスホールにおいて寝屋川市、寝屋川市医師会、大阪府寝屋川保健所の後援で開催され、119名が参加しました。高山康夫香里病院長が挨拶を行い、高橋延行准教授が座長を務めました。メインテーマは「最近増えているおなかの病気」とし、内科の廣原淳子准教授が「急増中！お酒を飲まなくても起きる危険な脂肪肝—NASH(ナッシュ)について」、また外科の吉岡和彦准教授が「大腸の病気と排便異常」というテーマでそれぞれ講演を行いました。



冒頭に挨拶する高山病院長

ジャパン・マンモグラフィーサンデー(JMSプログラム)に初参加

10月はピンクリボン月間であり、各地で様々なピンクリボン運動が開催される中、その一環であるジャパン・マンモグラフィーサンデー(JMSプログラム)に香里病院も今年初めて参加しました。10月の第3日曜日である16日に院内で、乳腺外科の吉田秀行助教及びびコメディカルが中心となり、事前申し込みの方を対象にマンモグラフィー併用乳がん検診を行いました。

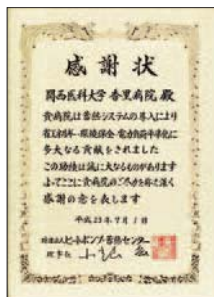


当日受診された12名の方に、日曜日に乳がん検診をすることについて尋ねてみると「平日は子育て、仕事など多忙でとても検診などには行けない」、「日曜日なら主人が子供の面倒を見てくれるので受診した」という意見がありました。また、住民検診や企業検診では検査結果は後日分かるのに対し、「マンモグラフィー、触診、総合診断と1日で検診結果まで分かり受診して良かった」という意見もみられました。

*ジャパン・マンモグラフィーサンデー(JMSプログラム)

子育て・介護・仕事・家事などで忙しく、平日に病院に行けない女性の皆様が休日の日曜日に「乳がん検診」を受けられるよう、全国の医療機関とNPO法人「J.POSH」が協力して毎年10月の第3日曜日に乳がん検診マンモグラフィー検査を受診できる環境づくりへの取り組みです。

財団法人ヒートポンプ蓄熱センターから「感謝状」を授与



8月10日(水)に8階会議室において、財団法人ヒートポンプ蓄熱センターから香里病院に感謝状が贈られました。省エネルギーや環境保全に対する取り組みの一環である蓄熱システムの導入により省エネルギー・環境保全・電力負荷平準化への多大なる貢献が認められたもので、同センターから感謝の言葉が刻まれた盾が授与されました。

*財団法人ヒートポンプ蓄熱センター

省エネルギーに優れ環境保全に貢献するヒートポンプ蓄熱システムの普及啓発・調査・研究などを積極的に行っている国内唯一のナショナルセンターです。

香里病院の腎泌尿器外科が夕方診療を開始

従来からの内科、小児科、乳腺外科、婦人科に加え、腎泌尿器外科が8月から夕方診療を開始しています。日程は右記のとおりです。なお、今後耳鼻咽喉科、整形外科も加わる予定です。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科	○	○	○	○	○
小児科	○	○	○	○	○
乳腺外科	○				
婦人科		○			○
腎泌尿器外科				○	

大学情報センター

パソコン講習会でスキルアップ 業務に活かそう！

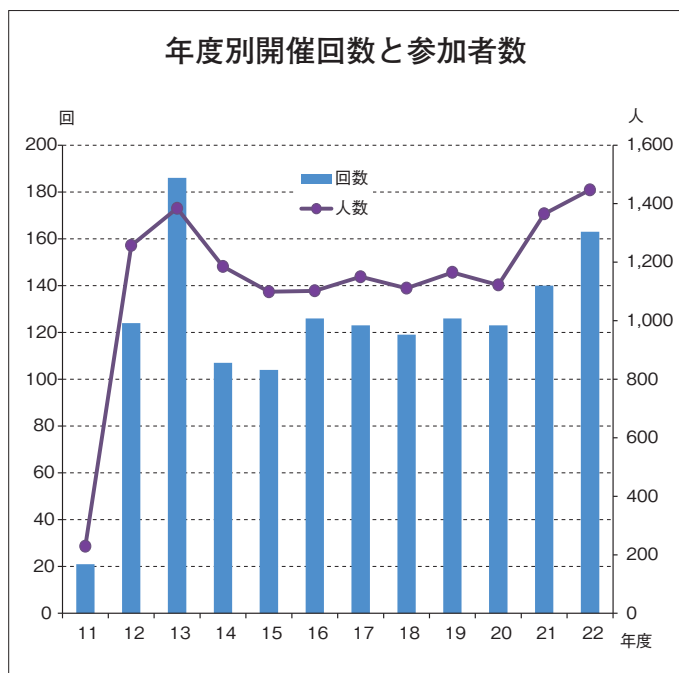
大学情報センター学術・業務部門では、学生及び教職員を対象に毎年、定期的に講習会を実施しています。後期からは、香里地区でも講習会を開催します。枚方地区は、Office2003中心の内容ですが、受講希望者のご要望もあり、Office2010ユーザーも参加できる内容にしています。無料で受講できるこの機会を活かしてスキルアップしませんか。皆さんの参加をお待ちしています。

滝井地区：Office2010(Windows 7パソコン)を中心とした講習会

香里地区：Office2007(Windows 7パソコン)を中心とした講習会

枚方地区：Office2003(Windows XPパソコン)を中心とした講習会

講習会の日程、内容、申し込み状況は、<http://www.tnoc.kmu.ac.jp/>にアクセスして「教育・研修」の枠内の「パソコン講習」をクリックしてご覧下さい。



平成23年度後期・パソコン講習会(枚方地区)

講習内容	開催日	曜日・時間	場所
Excel 2003 (10回)	11月28日～2月23日	月・木曜日	情報ライブラリー室
PowerPoint 2003 (4回、ポスター作成を含む)	2月27日～3月26日	午後5時30分～7時40分	枚方病院1階

平成23年度後期・パソコン講習会(滝井地区)

講習内容	開催日	曜日・時間	場所
Excel 2010(10回)	11月30日～2月24日	水・金曜日	医学情報処理室
PowerPoint 2010 (4回、ポスター作成を含む)	2月29日～3月23日	午後6時～8時30分 (休日による振替あり)	大学1号館 附属図書館内4階

平成23年度後期・パソコン講習会(香里地区)

講習内容	開催日	曜日・時間	場所
Excel 2007 (9回)	11月29日～2月14日	火曜日	研修室香里病院8階
PowerPoint 2007 (4回、ポスター作成を含む)	2月21日～3月13日	午後6時～8時30分	

※現在、受付中のコースのみ掲載しています。

被災地支援

被災地医療機関への医師派遣について

全国医学部長病院長会議において近畿地区の国公立、私立医科大学が担当し、被災地の医療機関に対して継続的な医師派遣を行うことが決定されたことを受け、本学からは岩手県立宮古病院に、次の通り派遣されました。年明けには第3次、第4次の派遣も予定されています。

第1次：湯浅文雄講師(附属枚方病院循環器内科)
波柴尉充助教(附属滝井病院救急医学科)
期 間：9月18日(日)～9月24日(土)

第2次：岸本真房医師(内科学第3講座)
三城弥範医師(病理学第2講座)
期 間：9月25日(日)～10月1日(土)

東北地方太平洋沖地震に係る義援金について

本学では、東北地方太平洋沖地震に際して、被災された方々を支援するため、全学を挙げて義援金を募り、既に3月と5月に第一次、二次として総額7,631,767円に上る義援金を日本赤十字社に送金していますが、この度、第三次として以下の金額を送金しました。

第三次義援金総額 218,926円

職員、名誉教授ほか職員関係者 22,082円

患者のみなさん 196,844円

なお、先の義援金と合わせ総額は7,850,693円となっており、義援金募集は今後も継続します。

卒後臨床研修センター

後期臨床研修合同説明会を開催

後期臨床研修医募集のための各診療科合同による説明会が8月6日(土)午後3時30分から、附属枚方病院13階の講堂、合同カンファレンスルーム、レストラン「のぞみ」の各会場で開催され、本学研修医12名、他病院の研修医16名が参加しました。卒後臨床研修センターの金子一成副センター長の挨拶に引き続き、18診療科が参加したブース形式の科別説明会が行われ、参加者は各ブースで熱心に耳を傾けていました。この後の情報交換会では参加者が各診療科の教員から研修先に関するアドバイスを受けるなど交流を深めていました。



各診療科のブースで話をする参加者

臨床研修医研修会～感染・放射線・医療安全のツボ～を開催

熱心に講演に耳を傾ける参加者



8月31日(水)に附属枚方病院13階講堂において、同病院の今村洋二病院長の座長のもと、臨床研修医研修会「感染・放射線・医療安全のツボ」を開催しました。53名の研修医が参加し、今村病院長の講話に続き、感染症管理部の宮良高維部長(教授)及び放射線部の片上和敏技師長の講演のほか、医療安全管理部による演習があり、参加者は熱心に取り組み、病院に勤務する研修医の業務上での不安軽減につながる有意義な研修会でした。

臨床研修合同説明会に72名が参加

10月22日(土)午後3時30分からリーガロイヤルホテル(大阪)において、本年度2回目の附属枚方病院と附属滝井病院の臨床研修合同説明会が開催されました。今回は5回生を対象とし、本学から62名、学外から10名の合計72名の医学生が参加しました。説明会では、山下敏夫理事長・学長をはじめ今村洋二附属枚方病院長、岩坂壽二附属滝井病院長、高山康夫香里病院長の挨拶の後、本学の研修プログラムについて木下利彦卒後臨床研修センター長から説明がありました。また、腎泌尿器外科の増田朋子助教から本学の女性医師支援への取り組みについての紹介、大阪府済生会泉尾病院の小西正人副院長から同病院の紹介や研修内容の説明があったほか、現役の研修医から体験談等が話されました。その後、各科から指導する立場の先生方が加わって情報交換会が行われ、参加者は個別に質問するなど盛会裡に行われました。



真剣な表情で説明を聞く医学生たち

臨床研修指導医養成講習会開催

平成23年度の本学臨床研修指導医養成講習会が10月29日(土)、30日(日)の2日間(1泊2日)の日程で、大阪市のホテルコスモスクエア国際交流センターで開催されました。臨床研修指導医となるためには、厚生労働省が定めた指針に則った講習会を受講し、修了証書を得ることが必須条件で、この講習会もそれに沿った内容で実施され、学内関係者34名が受講を修了しました。学外から聖路加国際病院の福井次矢病院長をディレクターとして招聘し、ワークショップ形式での全体討議・グループワーク・ミニレクチャーが行われました。受講者は、臨床研修医の研修に対する教育指導の目標や評価法を理解し、そして基本的な臨床能力を備えた研修医を育成する力の習得に向けて、講演に聞き入るとともに、活発な議論を展開しました。

福井病院長のご講演の様子



平成24年度マッチング結果発表

平成24年春卒業予定の医学生と研修医受け入れ病院の両方の希望をコンピュータで突き合わせるマッチングの結果が10月27日(木)に発表されました。本学のマッチング結果は、次のとおりです。

- ・附属枚方病院プログラム 定員40名
40名(本学出身者35名)
- ・附属枚方病院小児科重点プログラム 定員2名

- 2名(本学出身者1名)
- ・同産婦人科重点プログラム 定員2名
1名(本学出身者1名)
- ・附属滝井病院プログラム 定員9名
9名(本学出身者6名)

なお、産婦人科重点プログラムの空席1名については二次募集を行っています。

高校生ら熱心に見学

オープンキャンパス開催

附属看護専門学校のオープンキャンパスが7月29日(金)、8月2日(火)、同9日(火)の3回、いずれも午前10時から同校で開催されました。3日間の参加人数は合計255名で、高校3年生をはじめ同1・2年生や社会人、そして保護者らの来場があり、学校の変遷、教育内容の説明のほか、校舎内の主要な場所を案内しました。

いずれの開催日も午後から附属枚方病院の施設見学が行われ、合計88名が参加しました。また、病院見学では病棟や治療室を公開、看護師をめざす参加者たちは熱心に見学し、積極的に質問を投げ掛けていました。



説明に耳を傾ける参加者

「がんばろう関西」テーマに学校祭開催



ステージイベントなどで盛り上がる学校祭

附属看護専門学校の学校祭が9月30日(金)と10月1日(土)の両日に開催されました。1日目は、関西医科大学牧野キャンパスでバレーボール、バスケットボール、ドッジボールの3競技に若さを爆発させ、大いに汗を流しました。

2日目は高殿学舎でバザー、模擬店に加え、健康相談や老人・車椅子体験、妊婦・育児体験といった同校らしい催しを繰り広げ、外部の方との交流・学生間の親睦を深めました。自治会では、バザーや模擬店の売り上げだけではなく、大学や看護専門学校同窓会からの援助金も含め、すべてを東日本大震災の義援金として寄付することを決めました。また、今年は各病院看護部の皆様からたくさんのバザー品を提供していただき、その収益金もともに寄付しました。

投稿

10月15日(土)に附属枚方病院で災害訓練(14ページ参照)が実施され、附属看護専門学校の学生は患者役などで参加しました。参加した学生から投稿がありましたので紹介します。

被災者体験を通しての学び

32期生1年A組 伴場 幸子

私は災害訓練で首から背中、肩にかけて軽度の熱傷を負った人を演じた。災害が発生し、救急隊員が救助に来るまで思った以上に時間がかかったように感じた。自分で歩行できる人が救急隊員と外に出て行った後、残された私は助けられるのか不安になった。もし「救急隊員にみつけれず、取り残されてしまったら」と思うと、とても心細くなった。だから救急隊員の「もう少し待ってください」「すぐに助けに来ますからね」「頑張ってください」という声掛けは、私を安心させた。救出され外に出ると、ある救急隊員は被災者一人ひとりに「痛かったね」「すぐに治療するからね」「もう大丈夫だよ」などの声掛けを行っていた。私はそれを見て感動した。そして「自分も助かるのだ」と感じた。人の言葉はすごい力を発し、被災者の気持ちを落ち着かせるにはそのような行動が効果的だと思った。

被災者役をしてもう一つ思ったのは「早く自分を治療してほしい」「自分の命に危機はないのか」といった自分優先の気持ちの強さ、他人の事より自分のことが気になったこと。他人より自分のことを思うのは、医療者になる者として良くないと思ったが、正直なところやはり自分のことが一番気になってしまった。だから、医療者はその気持ちを察して、より早く適切な治療や援助を行う必要がある、そ

のためにもチームワークが大変重要であると思う。そして、医療者の一声が被災者にとって、大きな心の支えになることを実感した。

また、亡くなった方の家族役をした友達の話を聞いた。シナリオでは、医師に「もっとちゃんと治療をして下さい」というセリフがあったのだが、実際には、そのセリフが言えなかったと言っていた。亡くなったという事実を、受け止めるだけで精一杯だったという。訓練でもこのように感じるのに、実際に体験した家族はどんなに苦しく辛いのだろうかと考えると、たまらなかった。また、トリアージの判断は難しそうだった。少しの判断違いで、助かる命も助からないことに何となく気付いた。そして時間の経過とともに悪くなる方が多く、良くなる方は少ないのではないかとということにも気付いた。

災害訓練を通して、私は被災者の気持ちを実感することができた。被災者役を演じながら、周りの救急隊員の動き、医療者の動きをしっかりと見ることができてとても勉強になった。私が医療者になった時、どんな態度で人に接するのか、これからさらによく考えようと思う。この貴重な体験を、これからの学習に活かしたい。

同窓会

第21回大学理事と同窓会・加多乃会理事との懇談会開催

8月20日(土)午後3時から、守口ロイヤルパインズホテルで、毎年恒例の関西医科大学と関西医科大学同窓会、財団法人加多乃会の3組織の理事による懇談会が持たれました。この会は平成2年9月に当時の塚原勇理事長・学長を囲む会として始まり、大学の現状や考え、将来計画を同窓会へ知らせ、また同窓会からは大学への課題の指摘や質問を通してお互いのコンセンサスを深めてきました。両者の忌憚のない意見交換の場で、大学病院としては開業する同窓生に協力を求め、開業する同窓生からは附属病院への注文を出すなど、病診連携という言葉が出来る以前からの母校と卒業生の代表者同士の意思疎通と協力の懇談会となっています。

山下敏夫大学理事長・学長、徳永力雄常務理事、澤田敏副学長、伊藤誠二副学長、今村洋二病院長、岩坂壽二病院長、高山康夫病院長の各常任理事が、秋田光彦同窓会会長・水野孝子加多乃会会長以下19名の両会理事の質問を受ける形で懇談が持たれました。主な話

題は①大学の経営と職員の処遇②教育・国試対策、医療連携の取り組み、特別枠入学者の進路③枚方新学舎の防災、寄付、顕彰、将来④牧野キャンパス全体の将来⑤枚方、滝井、香里各附属病院の方向性⑥女性医師への支援で、2時間半に亘って大学の理事長及び各担当理事から詳細な回答がなされました。その後は会場を移して懇親会が持たれました。



忌憚のない意見交換が行われた懇談会の様子

平成24年 同窓会新年会ご案内

平成24年の新春を、同窓生が一堂に会しお祝い致したいと準備しております。

ご友人お誘い合わせのうえ、多数ご参加ください。

日時：平成24年1月14日(土)午後5時30分～

場所：ANAクラウンプラザホテル神戸9F「ローズマリー」

会費：15,000円

関西医科大学同窓会 会長 秋田 光彦

財団法人加多乃会 会長 水野 孝子

TEL 06 - 6993 - 0121

FAX 06 - 6991 - 6221

メディア情報

教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。
(平成23年8月1日～10月31日 ※判明分のみ)

健康科学センター 附属枚方病院形成外科	毎日放送「VOICE」 8月4日(木) (午後6時20分～32分)	「医療?美容?気になるアンチエイジングの最前線」というテーマの特集で「アンチエイジングドック」の様子が放送され、同センターの木村穰教授が出演しました。
岡本 祐之 教授 (皮膚科学講座)	読売新聞 8月7日(日)	「多汗症」に関するインタビュー記事で、多汗症の原因や治療法に関する解説が掲載されました。
金子 一成 教授 (小児科学講座)	読売新聞 8月19日(金)	「夜尿症」に関する記事で、生活指導や薬物治療などに関するコメントが掲載されました。
木村 穰 教授 (健康科学センター)	ABC朝日放送「おはよう朝日土曜日です」 8月20日(土)(午前7時28分～40分)	心筋梗塞をテーマにした特集で、原因や予防法について話しました。
海堀 昌樹 講師 (外科学講座)	ラジオ大阪「大阪チャレンジ教室」 8月22日(月)、29日(月)(午後8時30分～43分)	「病気の一般的な知識」と「肝臓疾患」の各テーマについて解説しました。
北尻 雅則 准教授 (耳鼻咽喉科学講座)	毎日新聞 8月30日(火)	「第1回鼻の日セミナー」(大阪市、8月7日開催)で講演した北尻准教授の講演内容が掲載されました。
高橋 寛二 教授 (眼科学講座)	毎日新聞 9月23日(金)	日本抗加齢医学会の特集記事で、「加齢黄斑変性」に関して、要因や予防、効果的なサプリメントの紹介治療法などに関するインタビューが掲載されました。
高橋 寛二 教授 (眼科学講座)	毎日新聞 9月25日(日)	「緑内障」に関する症状や原因、治療法、予防法についてインタビューが掲載されました。
永井 由巳 講師 (眼科学講座)	読売新聞 10月6日(木)	「白内障の症状と治療について」の座談会に出席した内容が紹介されました。
吉内佐和子 管理栄養士 (附属枚方病院栄養管理部)	ABC朝日放送「おはよう朝日です」 10月26日(水)(午前7時35分～40分)	「あなたの食事は間違っている!?～脂肪についての正しい知識～」というテーマのコーナーに出演、解説しました。

キャンパスニュース

被災地へ歌声届けたい

コールクライス部員らが震災復興支援のイベント開催

東日本大震災の被災地に歌を贈り届けようと、関西の大学生たちによる震災復興支援合唱イベント「合唱人の心をひとつに～関西の大学生から被災地へ～」が9月25日(日)午後1時から、滋賀県の栗東芸術文化会館さくら大ホールで開催されました。このイベントは本学と大阪医科大学の学生で構成する実行委員会による企画で、学生たちが合唱する様子を録画収録し、1つの作品として被災地に送り届け、被災者を少しでも勇気づけたいというコンセプトのもと、本学の混声合唱団コールクライスや大阪医科大学の合唱団を中心とした関西の12大学の学生50名が参加しました。



観客のいないホールで合唱する学生たち。この模様を収録し、被災地へ送り届けます

合唱曲はこの日のためにつくられたオリジナル曲「ひとつになりたい」で、メンバーは9月から計4度の練習を行いました。本番の日は観客のいないホールを会場とし、想いを込めて歌う様子を動画収録しました。この作品は既にインターネット動画共有サービスの「YouTube」で配信しているほか、収録したDVDを被災地の計30市町村教育委員会(岩手9、宮城12、福島9)に届け、各市町村の学校に広めていただく予定です。

「ひとつになりたい」(作詞：青島江里氏／作曲：大田桜子氏)

こんな些細な事で笑う君に 涙がこぼれてくるなんて 思いもしなかった
 何気ない日の光に その頬は ほの白さの向こうで 赤く透けていた
 明日もあさっても いついつまでも会いたい 君のそんな笑顔に会いたい
 私はその笑顔にたどりつくまで 息の千切れそうになる悲しみと
 君が一心で向かいあっていたことを この先もずっとずっと忘れない
 君の笑顔が勇気を連れてくる 立ち足はだかるものを乗り越えながら もっとそばで
 もっと強く 私たちはひとつになりたい
 君の笑顔を育ててくれた あの頃の眩しい景色に向かって 私たちは共に踏み出してゆく
 君に流れる血潮よ 熱く光れ どんな海にも負けなくらいに

霜月祭 市民ら多数参加

10月28日(金)～30日(日)の3日間、本学の学園祭「霜月祭」が牧野キャンパスで開催されました。今年のテーマは「Smile～Pray for Japan～」で、近隣の学生や地域の人々が多数来場しました。会場では模擬店やバザーに加え、恒例の「医学博」や各クラブの活動発表、さらにお笑いプロタレントのステージやビンゴ大会が展開されるなど、大盛況の3日間となりました。

また、3月の東日本大震災の被災地の一刻も早い復旧・復興を願ったチャリティー模擬店を会場内に設けてグッズを販売し、多数の来場者に購入していただきました。

バザーの売上金及びチャリティー模擬店の収益金は、東日本大震災復興のためunicefに寄付させていただきます。



にぎわうメイン会場



地域の人が多数足を運んだバザーの様子



計21の模擬店が並び、にぎわいました

キャンパスニュース

2 学生に学長賞を授与

「学長賞授与式」が10月14日(金)午後12時15分から専門部学舎1号館5階大会議室で行われました。学長賞はクラブ活動、社会活動、文化活動などに優れた成果を挙げた学生を表彰するもので、2学年の白神裕士君(カヌー部)にクラブ活動賞、4学年の上嶋貴之君に社会活動賞がそれぞれ贈られました。

白神君は昨年8月の「関西学生カヌー選手権」において、同志社大学や立命館大学などの全国クラスの選手を抑えて優勝した快挙を称えられ、上嶋君は今年2月に附属枚方病院のCCU入院中の患者が放射線科受付前でMRI撮影の待機中に突然心肺停止状態になった際、付添い看護師が緊急連絡に走ったため、その看護師に代わって心臓マッサージを施行し、患者を救命したことが評価されました。式典では2学生に山下敏夫学長から賞状と記念品が手渡され、激励の言葉も贈られました。



山下学長を囲んで写真に収まる受賞学生たち

計17種目に奮闘 第63回西医体

7月30日(土)から8月14日(日)にかけて開催された医学生のスポーツの祭典「第63回西日本医科学生総合体育大会(西医体)」では、医学生たちが熱戦を繰り広げました。本学は17競技にエントリーし、総合順位は26位(44校中)で、水泳男子100mバタフライで久次米佑樹君(5学年)が1位に輝いたほか、各種目で活躍しました。主な成績は下記の通りです(8位入賞以上を掲載)。

種目	氏名	順位
ソフトテニス 女子	—	ベスト8
バスケットボール 男子	—	ベスト8
陸上競技 男子	棒高跳	西岡 靖之 5位
	円盤投	青野 佑哉 6位
陸上競技 女子	総合	— 2位
	トラック部門	— 3位
	フィールド部門	— 2位
	400m	吉田 知紘 6位
	100mハードル	印藤 恵 4位
	100mハードル	佐藤結衣子 5位
	400mハードル	吉田 知紘 3位
	400mハードル	印藤 恵 6位
	4×100mリレー	— 3位
	4×400mリレー	— 2位
	砲丸投	印藤 恵 3位
	砲丸投	宮田真友子 6位
陸上競技 女子	円盤投	印藤 恵 2位
	円盤投	佐藤結衣子 5位
	やり投	佐藤結衣子 5位
	ハンマー投	佐藤結衣子 5位
水泳 男子	総合	— 6位
	400m自由形	杉田 亮 6位
	100mバタフライ	久次米佑樹 1位
	200mバタフライ	久次米佑樹 3位
	100m平泳ぎ	愛甲 一樹 6位
	400m個人メドレー	愛甲 一樹 4位
	400mメドレーリレー	— 4位
水泳 女子	100m自由形	早田菜保子 6位
	50mバタフライ	金子 朋加 5位
	50m背泳ぎ	早田菜保子 4位
	100m背泳ぎ	金子 朋加 4位
	400mリレー	— 2位

お知らせ

附属枚方病院が西日本1位の評価を得ました

『週刊ダイヤモンド 2011年10月29日特大号』の特集「頼れる病院2011→2012」の中で掲載された「西日本病院ランキング」において、本学の附属枚方病院が1位に選ばれました。このランキングは医療の機能と経営状態など病院の総合力について、ダイヤモンド社がアンケートや公表されているデータに基づいて評価したものです。

審査は、医療の機能について「診療科目数」「医師数」「専門医数」「看護師配置」「医療スタッフ」「施設・設備」「紹介率」「災害拠点病院」、経営状態について「病床利用率」「平均在院日数」「人件費率」「経常収支比率」の計12項目を点数化して行われ、この全項目で附属枚方病院は高い評価を受け、西日本1位の栄誉を受けました*1。続いて鳥取大学病院、広島大学病院、済生会熊本病院、産業医科大学病院、倉敷中央病院、兵庫医科大学病院、九州大学病院、近畿大学病院、神戸大学病院の順となっています。また、大阪府のランキングは、1位の附属枚方病院以下、近畿大学病院、大阪大学病院、高槻病院、淀川キリスト教病院が5位以内となりました。

『週刊ダイヤモンド』は、仕事と家庭の壁を越え、ビジネスマンに現在の必要不可欠な専門情報を先取りし

て発信し、一般社団法人「日本ABC協会*2」からも高評価を得た、ステータスの高い週刊誌です。書店店頭売り上げでは、病院に関する特集において2008年で4位、2009年で6位となるなど上位にランクされており、読者の病院への関心の高さがうかがえます。

このように社会から信頼される週刊誌による格付けで「頼れる病院」として1位に選ばれたことは、本学にとって大変喜ばしいことです。この評価に応え、今以上に地域の皆様に愛される病院を目指して参ります。



*1 調査の対象

法人税や固定資産税などが非課税となっている、いわゆる公的病院すべて。民間病院(私立の大学法人含む)は総病床数が200床以上に絞った。どちらも、一般病床数が総病床数の7割に満たない病院、平均在院日数が100日以上 の病院、小児センター、がんセンターなど、専門性が高い病院は除いた。

※『週刊ダイヤモンド』(2011年10月29日特大号)より抜粋

*2 日本ABC協会

新聞、雑誌、フリーペーパー等の発行社からの部数報告を公査し、その結果を公表する活動を行う一般社団法人。ABCとは、Audit(公査)Bureau(機構)of Circulations(部数)の略称。

編集後記

10月末に開催された本学の学園祭「霜月祭」は地域の方や近隣学生らが多数参加し、大変な盛り上がりを見せていました。学生たちは、この日ばかりは終始リラックスした表情を浮かべ、英気を養っていたようです。ご参加くださった皆さまには厚く御礼申し上げます。

さて、学園祭が終わり、日没の時間がいっそう早くなりました。今年も残り1ヵ月です。皆さん、やり残したことはありませんか。(山)

関西医科大学広報 Vol.15

発行 学校法人 関西医科大学
編集 総務部 広報課
〒570-8506 大阪府守口市文園町10-15
TEL 06-6992-1001(代表)
FAX 06-6993-5221
<http://www.kmu.ac.jp/>
E-mail kmuinfo@takii.kmu.ac.jp
平成23年11月24日(木)発行